

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和05年11月24日

計画の名称	箱崎地区都市再生整備計画事業												
計画の期間	令和04年度 ~ 令和08年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	福岡市												
計画の目標	大目標：イノベーションを生み出す新たな拠点の創出 目標1：鉄道駅を中心とした交通結節機能の強化 目標2：地域のアメニティ・防災等機能の確保 目標3：未来に誇れる、持続可能なまちづくりの推進												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	9,351	A	9,351	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2,3		R8
1	土地利用面積			
	土地利用面積	2551m2	m2	21594m2
	エリア内宅地における土地利用がなされている(又はなされる)敷地面積			
2	実証実験参加人数			
	実証実験参加人数	0人	人	1200人
	官民連携による(仮称)イノベーション導入支援組織やFUKUOKA Smart EASTモビリティ推進コンソーシアムによる社会実装に向けた様々な実証実験への参加人数			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況			
												R04	R05	R06	R07	R08						
一体的に実施することにより期待される効果																						
備考																						
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	福岡市	直接	福岡市	-	-	箱崎地区都市再生整備計画事業	100ha	福岡市						4,603		-			
												小計						4,603				
市街地整備事業	A13-002	市街地	一般	福岡市	直接	福岡市	-	-	貝塚駅周辺区画整理事業	23.4ha	福岡市						4,748	1.56	-			
												小計						4,748				
											合計						9,351					

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R04				
配分額 (a)	148				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	148				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	89				
翌年度繰越額 (f)	59				
うち未契約繰越額 (g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

# 都市再生整備計画

はこぎき  
箱崎地区

ふくおか 福岡県 福岡市

令和 4年 7月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	地区名	箱崎地区	面積	100 ha
計画期間	令和 4 年度 ~ 令和 8 年度	交付期間	令和 4 年度 ~ 令和 8 年度				

**目標**  
 大目標：イノベーションを生み出す新たな拠点の創出  
 目標1：鉄道駅を中心とした交通結節機能の強化  
 目標2：地域のアメニティ・防災等機能の確保  
 目標3：未来に誇れる、持続可能なまちづくりの推進

**目標設定の根拠**  
 まちづくりの経緯及び現況  
**【まちづくりの経緯】**  
 ○平成24年12月「福岡市基本計画(第9次)」策定  
 ○平成25年2月「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」策定  
 ○平成26年度「福岡市都市計画マスタープラン」策定  
 ○平成27年3月 九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画  
 ○平成30年7月「九州大学箱崎キャンパス跡地ランドデザイン」策定  
 ○令和3年3月 貝塚駅周辺地区土地区画事業計画決定(現在事業中)  
**【地区の現況】**  
 ○本地区は、福岡市の北東部に位置し、福岡都市高速鉄道2号線(地下鉄箱崎線)及び西日本鉄道貝塚線の貝塚駅や九州大学箱崎キャンパス跡地、箱崎中学校等を含む地区である。  
 ○九州大学箱崎キャンパス跡地は都心部に近く、市街地内の貴重な大規模活用可能地として、本市基本計画や都市計画マスタープランにおいて、「機能を充実・転換する地区」に位置づけられており、新たな都市機能の導入により土地利用転換を図ることとしている。  
 ○地区南側は九州大学箱崎キャンパスであったが、移転完了、跡地となっている。その他、住宅、箱崎中学校が立地し、中学校は地区内で移転予定である。  
 ○JR鹿児島本線と西鉄貝塚線が地区内の南北を通り、地区西側境界は国道3号となっている。地区内には西鉄貝塚線の2駅(貝塚駅・箱崎九大前駅)が立地するとともに、JRの新駅整備が予定されている。またJR鹿児島本線は地区内は地平区間、西鉄貝塚線は地区北側では地平区間だが、地区内の箱崎九大前駅付近から地下区間となっている。

**課題**  
 箱崎地区においては、以下の課題が存在する。  
**【鉄道駅を中心とした交通結節機能の強化】**  
 ・貝塚駅は駅前広場空間が不足するなど、交通結節機能の確保(バス・プール等整備、幹線道路から駅へのアクセスの改善)が求められる。  
 ・地区内はJR、西鉄が南北に走りJR踏切も狭小であるため、東西方向の動線が不足している。  
 ・新駅整備が予定されており、新駅周辺において鉄道横断や自転車駐輪等の機能確保が必要である。  
**【貝塚公園等を活用した地域のアメニティ・防災等機能の確保】**  
 ・貝塚公園は開設から40年が経過し、施設等の老朽化が進み利用者へのニーズに対応しきれなくなっていることから、公園の再整備を含め、地域全体の癒しの空間や防災機能の確保等を検討する必要がある。  
 ・旧箱崎キャンパスをはじめ、歴史的遺産の保存や緑豊かな空間確保等、まちづくりの象徴となるような空間づくりを検討する必要がある。  
**【大学跡地の特性を活かした100年後の未来に誇れる、持続的なまちづくりの推進】**  
 ・大学跡地として、「充実した境域・研究の環境を生み出し、人を育てる」まちづくりを進める必要がある。  
 ・モビリティやエネルギー、IoT、人工知能などのテクノロジーを活用した次世代社会インフラの導入を目指した仕組みづくりが必要である。

**将来ビジョン(中長期)**  
 ○「福岡市総合計画」(平成24年度)では、「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点・福岡」を将来の都市づくりに向けて掲げている。  
 ○「福岡市都市計画マスタープラン」(平成26年度)の区別構想(東区)では、当該地区を「交通の利便性が高く、界隈性を持った区の拠点」に設定し、「機能を充実・転換する地区」として、まちづくりを進めている。  
 ○福岡市の基本計画や都市計画マスタープランにおいて、箱崎キャンパス跡地周辺は、福岡市の将来の都市活力の一端を担うポテンシャルを有しており、機能を充実・転換する地区として、市街地内の貴重な大規模活用可能地として位置づけられ、新たな都市機能の導入により土地利用転換を図ることとしている。  
 ○九州大学箱崎キャンパス跡地ランドデザイン(平成30年7月策定)  
**【FUKUOKA Smart EAST】** 少子高齢化など、まちづくりの様々な課題を解決しながら、持続的に発展していくため、最先端の技術革新の導入などによる、快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、未来に誇れるモデル都市「FUKUOKA Smart EAST」を創造していく。まずは、その先駆けとして、箱崎のまちづくりにおいて取組み、それが全市に広がり、さらに市を超え、より多くの人々に届くよう進めていく。  
**【まちづくりの基本的な考え方】**  
 -九州大学が百年存在した地としてのブランドと、広大な敷地や交通といった強みを活かし、働く人や学ぶ人、住む人、訪れる人などこれまで以上に幅広い人々が集まり、イノベーションを生み出す新たな拠点を創出する。  
 -千年以上に渡る箱崎の歴史や文化も踏まえながら、新たな拠点の創出に向け、イノベーションを生み出すチャレンジできるまちと、幅広い人々を惹きつける高質で快適なライフスタイルと都市空間づくりに取り組み、未来に誇れるまちを創造していく。

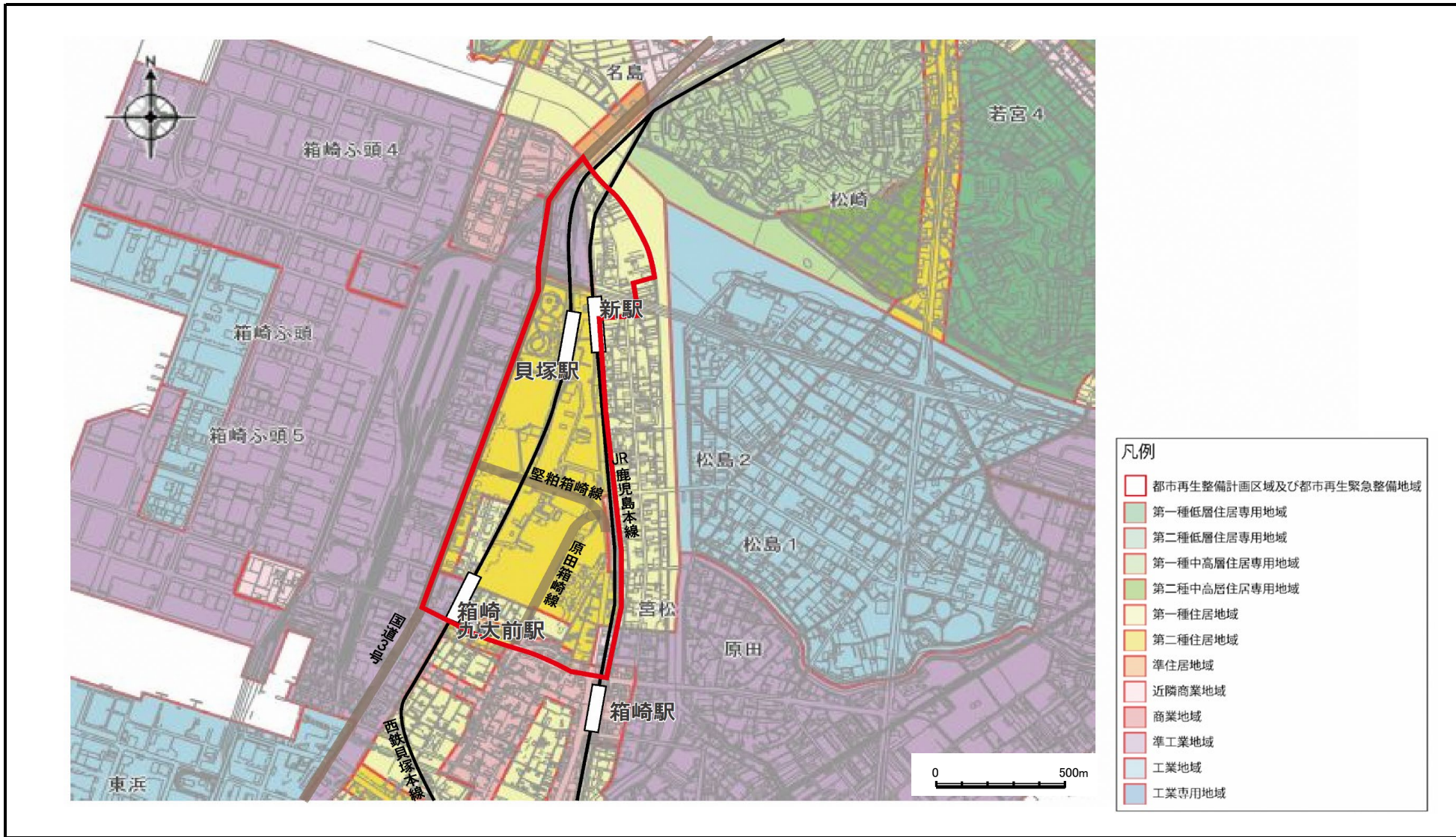
**目標を定量化する指標**

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	目標値			
				従前値	基準年度	目標値	目標年度
土地利用面積	m <sup>2</sup>	エリア内宅地における土地利用がなされている(又はなされる)敷地面積	土地利用面積の増進は、イノベーションを生み出す新たな拠点の創出に合致 目標値は、ビルトアップ曲線による目標年次(R8)を基に設定	2,551m <sup>2</sup>	R3	21,594m <sup>2</sup>	R8
実証実験参加人数	人	官民連携による(仮称)イノベーション導入支援組織やFUKUOKA Smart EASTモビリティ推進コンソーシアムによる社会実装に向けた様々な実証実験への参加人数	実証実験参加人数の増加は、未来に誇れる持続可能なまちづくりの推進に合致 (地域住民などの理解促進や意識醸成が図られ、実証実験を含む「最先端テクノロジー・イノベーション」による様々な社会課題解決・社会実装)が持続的なものとなる 目標値は、過年度実績値(本市による最先端テクノロジーなどのプロモーション)を基に設定	0人	R3	1,200人	R8

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 鉄道駅を中心とした交通結節機能の強化</p> <p>・都市計画マスタープランに掲げる「交通の利便性が高く、界隈性を持った区の拠点」を実現するため、鉄道駅周辺において安全な道路等の整備や歩行空間の確保を行い、交通結節機能の強化とともに、住民や来街者の安全性・回遊性を図る。</p>	<p>◇道路 交差点改良 ◇地域生活基盤施設 自由通路整備、自転車駐車場整備 ◇高質空間形成施設 シェルター等整備 ◇関連事業 貝塚駅周辺地区土地区画整理</p>
<p>整備方針2 地域のアメニティ・防災等機能の確保</p> <p>・地区内の自然・文化資源の継承や魅力的な形成に資する公園整備等を行うことで、地域の癒し空間や防災機能の確保等、良質な空間づくりを推進する。</p>	<p>◇公園 貝塚公園再整備事業、(仮称)跡地中公園整備事業 ◇地域生活基盤施設 史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用 ◇関連事業 貝塚駅周辺地区土地区画整理</p>
<p>整備方針3 未来に誇れる、持続可能なまちづくりの推進</p> <p>・新たな技術等も踏まえて道路照明灯や防犯カメラを設置することで、防犯・見守り分野における社会課題の改善を図る。</p> <p>・九州大学が存在した地として、新たな活力や交流を生み出すため、モビリティやエネルギー、IoT、人工知能などのテクノロジーを活用した次世代社会インフラの導入を目指した仕組みづくりを進める。</p>	<p>◇高質空間形成施設 機能拡張型道路照明灯整備事業 ◇提案事業 3D都市データ構築・活用事業、イノベーション導入支援事業、自動運転モビリティ検討事業 防火・防災体制の充実強化事業、見守り設備設置事業、認知症施策推進事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な機能を持ちながらまち全体の一体感を創出するため、平面・立体・有機的につながる都市機能の誘導や景観の形成を図る</li> <li>・空間等の価値を最大化するため、外部区間や建物内空間の効果的な運用やモノの共有化など、共有社会の創出</li> </ul> </li> <li>◆周辺地域と調和・連携・交流しながら一体的に発展する             <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの魅力や防災性向上につながる、公園や広場などを適宜配置</li> <li>・人中心のまちづくりを進め、回遊性の向上や、憩い、にぎわい、交流をもたすため、オープンスペースを結び、まち全体を連続的に「そうつく」*(*歩き回るという意味)</li> <li>・町全体及び周辺地域が一体的に発展するため、長い歴史に育まれた箱崎の文化や関係性を大切にし、魅力ある資源を活かすなど、周辺地域との調和・連携・交流を図る</li> </ul> </li> <li>◆持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる】             <ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端の技術革新による質の高いライフスタイルを創出する先進的なまちづくり”FUKUOKA Smart EAST”の取組において、常に新たなライフスタイルや価値観を享受することができる持続可能なまちの創出</li> <li>・モビリティやエネルギー、IoT、人工知能などのテクノロジーを活用した次世代社会インフラの導入を目指した仕組みづくり</li> </ul> </li> </ul> <p>【九大箱崎キャンパス跡地のまちづくりキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆福岡市の持続的な成長に資する、「新たな活力・交流を生み出す」まちづくり</li> <li>◆九州大学が存在した地として、「充実した境域・研究の環境を生み出し、人を育てる」まちづくり</li> <li>◆高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、「安全・安心・快適で健やかに暮らす」まちづくり</li> <li>◆千年のまち、大学百年の「歴史文化資源を大切にする」まちづくり</li> <li>◆次世代の環境技術と豊かな緑を生かして、「環境と共生し、持続可能なまちをつくる」</li> </ul> <p>【JR鹿児島本線の新駅開業が予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆2025年開業予定</li> <li>※今後の土地区画整理事業等の状況を踏まえて決定</li> </ul> <p>【箱崎中学校が移転予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区北部にある箱崎中学校(校地面積約31,000㎡)が、九州大学箱崎キャンパス跡地内に移転予定</li> </ul>	



箱崎地区(福岡県福岡市)	面積	100 ha	区域	福岡市東区箱崎3丁目の一部、箱崎6丁目、箱崎7丁目の一部、筥松4丁目の一部
--------------	----	--------	----	---------------------------------------





箱崎地区(福岡県福岡市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	大目標:イノベーションを生み出す新たな拠点の創出 目標1:鉄道駅を中心とした交通結末機能の強化 目標2:地域のアメニティ・防災等機能の確保 目標3:未来に誇れる、持続可能なまちづくりの推進	代表的な指標	土地利用面積 ( m <sup>2</sup> )	2,551 (R3年度)	→	21,594 (R8年度)
			実証実験参加人数 ( 人 )	0 (R3年度)	→	1200 (R8年度)



- 【提案事業】  
事業活用調査  
・事業効果把握調査
- まちづくり活動推進事業  
・3D都市データ構築・活用事業  
・イノベーション導入支援事業  
・自動運転モビリティ検討事業  
・防火・防災体制の充実強化事業  
・見守り設備設置事業(計17箇所) ○  
・認知症施策推進事業

- 凡例
- : 都市再生整備計画の区域
  - : 基幹事業
  - : 提案事業
  - (参考)
  - : 関連事業

- 凡例
- : 都市再生整備計画区域
  - : 第一種低層住居専用地域
  - : 第二種低層住居専用地域
  - : 第一種中高層住居専用地域
  - : 第二種中高層住居専用地域
  - : 第一種住居地域
  - : 第二種住居地域
  - : 準住居地域
  - : 近隣商業地域
  - : 商業地域
  - : 準工業地域
  - : 工業地域
  - : 工業専用地域

○関連事業  
事業主体:福岡市  
貝塚駅周辺土地区画整理事業

事業主体:UR  
箱崎地区住宅市街地総合整備事業

## 事前評価チェックシート

計画の名称： 箱崎地区都市再生整備計画事業

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

事前評価		チェック欄
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境	2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境	3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○